

「高校生のための学びの基礎診断」への申請があった測定ツール基本情報

○標準タイプ【高等学校段階の共通必修科目の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ】

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間
【3教科（国語・数学・英語）】									
株式会社 学研アソ シエ	学習到達度 診断 実力コース	中学校の学 習内容を含 めて基礎学 力の定着度 合いを確認 したい高校1 ～3年生	基礎学力の定着度合いを診断することを目的として、中学校の学習内容を含めて基礎学力の定着度合いを確認したい高校1～3年生を主な対象とする	テスト(測定) →学力分析 →フォローノート →弱点補強	1年生:第1回 平成 31年2月実施開始予 定、平成30年12月 から受検申込み開 始予定 2年生:第1(3)回 同上 3年生:第1(5)回 同上 1・2年生年間2回、 3年生年間1回	PBT *CBTに 関しては 研究中。	各教科50分	フォローノート セット 2,000円/回 診断のみ 1,600円/回	答案到着 から2～3 週間
		URL (事業者のHPにおける商品・サービス紹介)			https://www.gakuryoku.gakken.co.jp/				
株式会社 ベネッセ コーポ レーショ ン	進路マップ 実力診断テ スト	四年制大 学・短期大 学・専門学 校を含む各 種の学校へ の進学から 就職まで幅 広い進路を 目指す高校 1年生・2 年生・3年 生向け	<p>【目的】 高校履修範囲を中心（1年6月回は義務教育範囲含む）に基礎学力の定着度・学習習慣の状況を定期的に測定することで、学校としての指導改善、生徒の学習改善・基礎学力向上・学習意欲の向上に役立ててもらうことを目的とする。</p> <p>【概要】 ・「記述式」問題により、義務教育範囲から高校履修範囲までの基礎学力の定着度をそれぞれの学校の進度に合わせて（回ごとの進度対応）、より客観的に測定することができます。回ごとに生徒用事前教材が準備されているので、生徒一人ひとりが意欲的に事前学習に取り組める仕組みになっています。 ・生徒個人向けに、基礎学力の到達状況を全体としての学力測定指標「学習到達ゾーン(GTZ)」や「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」別の結果として提供すると共に、学習アドバイスを提供することで、受検結果を次の学習改善につなげます。 ・学校へは学年集団の特性がわかる概況データ及びクラス担任・教科担任先生用に学習状況を踏まえた情報を提供することで、指導改善や生徒への声かけの材料として活用いただけます。 ・1年生から3年生まで各学年3回構成となっており、選択問題も含まれますので、学校の進度により合った実施が可能です。国語・数学・英語の教科問題50分間×3教科に加えて、英語スピーキングテスト問題25分間または学校採点の英語スピーキング問題5分間、アンケート30分間の構成です。</p>	<p>【特長】 ・診断結果は「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の観点で評価し、テストと合わせて学習力（教科学習面・生活面・進路面）に関するアンケートがあり、学力と学習力（学習状況）の両面から、生徒向けにアドバイスコメントを返却します。 ・結果を振り返る中で「振り返り問題」を提示し、事後の学習行動を具体的にアドバイスします。</p> <p>【活用例】 1年6月に実施し、入学後1学期段階での「基礎学力」と「学習力」の初期把握を行い、その結果を学年の指導計画に反映します。また、個人票を元にしたクラス担任先生の個別面談により生徒一人ひとりの状況把握ができます。1年10月に2回めを、1年1月に3回めを受検することで、4月からの学力の推移と学習力の変容を定期的に測定・把握し、指導改善のPDCAサイクルを回し、次学年の指導計画立案につなげます。</p>	<p>【実施期間】 実施時期は、 1年6月/10月/1月、 2年6月/10月/1月、 3年4月/6月/9月 の計9回。 3年4月より「理科」「地歴・公民」「基礎・活用」が付きま</p>	PBTのみ	<p>【国語・数学】 各学年回 記述式問題：50分</p> <p>【英語】 各学年回 記述式問題：50分（リスニング・リーディング・ライティング） スピーキングテスト問題：25分 または 学校採点のスピーキング問題：5分</p>	<p>1年6月～2年6月まで： 学校採点の英語スピーキング問題の場合：1,750円/回 英語スピーキングテスト問題の場合：2,550円/回 2年10月以降： 学校採点の英語スピーキング問題の場合：1,860円/回 英語スピーキングテスト問題の場合：2,660円/回</p>	答案到着 後約4週 間で返 却。
		URL (事業者のHPにおける商品・サービス紹介)			https://bhso.benesse.ne.jp/ ※教員専用URL				

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間	
【3教科(国語・数学・英語)】										
株式会社 ベネッセ コーポ レーション	スタディー サポート α タイプ、 β タイプ、 θ タイプ	主に、四年 制大学・短 期大学等へ の進学を目 指す生徒が 多い高校の 高1生～高3 生	<p>【目的】</p> <p>大学進学に向けた、国語・数学・英語の基礎学力の定着度と学習力（学習習慣・学習方略等）について把握することで学校の指導改善、生徒の学習改善・基礎学力の定着・向上に役立てていただくことを目的とする。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒個人向けに、基礎学力の到達状況とその状況に基づいた個別の学習課題を結果として提供するとともに、課題克服に向けた教材や学習アドバイスを提供することで、受検結果を次の学習改善につなげます。学校へは学年集団の特性がわかる概況データ及びクラス担任・教科担任先生用に学習状況を踏まえた情報を提供することで、指導改善や生徒への声かけの材料として活用いただけます。 難易度は3タイプあり、3学年5回（1・2年は2回、3年は1回）の各回で履修進度に応じた出題範囲を設定しています。義務教育範囲を含めた出題は1年1回でのみの出題となっています。 各教科「マーク解答式」問題と「記述式」問題に分かれており、主に、「マーク式」問題では基礎学力の「知識・技能」を、「記述式」問題では「思考力・判断力・表現力」を測定します。 	<p>【特長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前にドリル問題と目標設定ワーク付き冊子を提供します。この冊子には、診断結果を見て取り組める事後ワークシートやアドバイスもついており、生徒個人が振り返りを行うことで次の学習改善を促します。学力診断については、その結果に応じた復習問題を生徒個別に結果データとあわせて提供し、自身の改善点を自覚し復習に取り組むしくみとなっています。また、問題演習だけでなく学習の仕方や工夫にも具体的なアドバイスを提供します。 出題内容は実施時期に合わせた進度対応となっており、各回で異なります。問題難易は3タイプ（難度順にβ、α、θ）を用意しており、β・αタイプは過年度比較用の同一問題（毎年同じ問題）、又は新作問題の選択が可能です。θタイプは、前年度同一問題のみとなっています。 <p>【活用例】</p> <p>1年4月入学直後に実施し、入学段階での「基礎学力」と「学習力」の初期把握を行い、その結果を学年の指導計画に反映します。また、個人結果をもとにしたクラス担任先生の個別面談により生徒一人ひとりの状況把握ができます。1年9月に第2回を受けることで、4月からの学力の推移と学習力の変容を把握し、4月からの指導成果を検証することで、学年後半の指導改善につなげます。</p>	<p>実施期間：</p> <p>第1回（3月～5月）末）：1年・2年・3年</p> <p>第2回（8月～10月）末）：1年・2年</p> <p>計5回</p> <p>お申込み時期： 2月～（実施日の15日前まで）</p>	PBTのみ	<p>【国語】</p> <p>①「マーク式」問題：50分、60分、70分の3種類の設定あり。学年回及び、現／現古／現古漢と難易度タイプで異なります。②「記述式」問題：15分</p> <p>【数学】</p> <p>①「マーク式」問題：60分、80分、120分の3種類の設定あり。学年回及び難易度タイプで異なります。120分は3年で数学を2コース受検する場合。②「記述式」問題：15分</p> <p>【英語】</p> <p>①「マーク式」問題：1年70分／2年3年は難易度タイプで70分/80分/90分/100分（リディング・リスニング）の4種類の設定あり。②「記述式」問題：15分（ライティング）</p> <p>③学校採点のスピーキング問題：5分</p>	3,100円/回	<p>※動画付は、1・2年用2回セットで7,440円、3年用1回で5,800円</p>	<p>1回目： 「マーク式」結果＝答案到着後約1週間～10日間で返却（紙）</p> <p>2回目： 「記述式」結果＝答案到着後約3～4週間で返却（データ）</p>
			URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）				https://bhs0.benesse.ne.jp/	※教員専用URL		
株式会社 ベネッセ コーポ レーション	スタディー プログラム ※2019年度より新規提供	主に、四年 制大学・短 期大学等へ の進学を希 望する高校 1年生・2 年生 ※特に、高 等学校教科 書例題レベ ルの基礎学 力定着を確 実にしたい 高等学校	<p>【目的】</p> <p>高等学校履修範囲における国語・数学・英語の基礎学力の定着を目的とした教材で、日常的な学習習慣づくりと基礎学力の定着を支援する学習・指導ツールと診断ツールを一体的に提供します。</p> <p>【概要】</p> <p>「スタディープログラム」は、学習ツール（分野・単元毎の学習プリント、学習動画）と診断ツールが一体となった教材です。学習ツールとしては、国語・数学・英語の基本的な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の習得を確実にするため、分野・単元別のプリント教材と学習をサポートする学習動画を提供します。診断ツールとしては、国語・数学・英語それぞれ既習範囲の分野・単元の学習定着度を測定するため、年間3回の実施期間毎に進度に応じた出題範囲・内容で測定を行います。また、学習状況調査で受検者の学習状況を診断します。</p>	<p>【特長】</p> <p>学習ツール（分野・単元毎の学習プリント、学習動画）は、各教科の学習系統に基づいて教材を設計しており、授業進度にあわせて体系的に基礎学力の定着を促します。また、付属する学習動画により、受検者自身による自学自習をサポートします。</p> <p>診断ツールは、年間3回の実施期間があり、各回で出題範囲・内容が異なります。国語・数学・英語の出題は、マーク式問題と記述式問題をあわせた構成で、それぞれ既習範囲の分野・単元から網羅的に出題をすることで、学力定着度を測定します。また、学習状況調査により日常での学習の取り組み度を診断します。</p> <p>年度毎の新作問題ではなく、同一問題を毎年出題することで、学年間の経年比較などが行えます。これにより、学年・クラス等の集団における習得状況・つまづき把握を指導改善につなげることができます。診断結果は段階別評価で提供することで、受検者自身が学習の積み上がり具合を確認できます。また、個人・学年単位の苦手分野・単元の診断結果とあわせて提示する学習ツール（学習プリント、学習動画）を学習改善・指導改善に役立てることができます。これによりPDCAサイクルの構築に繋げることができます。</p> <p>【活用例】</p> <p>授業進度に応じて、分野・単元の導入やまとめのタイミングでの理解度の確認に学習プリントを活用できます。授業時間内での活用のほか予習・復習や課題としても活用できます。特に分野・単元の導入では、これからの学習事項のつまづき要因となりやすい既習範囲の振り返りに役立てられます。また、診断ツールを年間最大3回実施し、学力と学習の観点で現状や変容の定点観測を行い、診断結果を指導改善や指導計画へ反映することができます。</p>	<p>実施期間：</p> <p>第1回（3月-5月）、 第2回（8月-10月）、 第3回（12月-1月）</p> <p>申込時期： 2019年2月申込受付開始予定、2019年3月実施開始予定</p> <p>※出題内容は各回で異なるため、年間3回までの受検が可能。</p>	すべて PBTで実施	<p>【国語・数学】</p> <p>マーク式・記述式問題：50分</p> <p>【英語】</p> <p>マーク式・記述式問題：50分（リディング・ライティング・リスニング）</p> <p>学校採点のスピーキング問題：5分</p>	6,000円/年	<p>※「スタディープログラム」年間利用料として、診断3回までの受検を含む。</p>	<p>1回目： マーク式結果＝解答用紙到着後、約2週間で返却（データ）</p> <p>2回目： マーク式と記述式をあわせた結果＝解答用紙到着後、約1か月で返却（紙）</p>
			URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）				新規提供のため、2018年6月時点は紹介サイトなし 今後右記サイトに掲載予定：	http://bhs0.benesse.ne.jp		

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間
【3教科(国語・数学・英語)】									
株式会社 ベネッセ コーポ レーション	ベネッセ 総合学力テ スト	主に、四年 制大学・短 期大学等へ の進学をめ ざす高校1年 生・2年生	<p>【目的・概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語・数学・英語各教科についての、学校の授業内容の定着度把握を目的として、学校の履修進度にそった出題をしています。これにより、履修内容に合った学力の定着度確認と苦手分野の把握を客観的に行います。 ・各教科とも、記述式問題により「知識・技能」から「思考力・判断力・表現力」まで幅広い学力の測定が可能です。 ・紙媒体とWebサービスを複合的に利用することができ、生徒一人ひとりが目標設定～自己採点～結果の振り返り・事後学習のプロセスを自発的に取り組める仕組みとなっています。 	<p>【特長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業進度にあった弁別性の高い問題で、学力測定指標「学習到達ゾーン(GTZ)」を利用して教科学力を的確に把握することができます。また、学校生活や学習面に関するアンケートを実施し、その変化とともに学力の変化をご確認いただけます。 ・生徒が自身の力で事前の目標設定～受検直後の自己採点～結果返却後の振り返りと事後学習に取り組める仕掛けを、紙媒体およびWebサービス(無料)の組み合わせで用意しています。 ・先生向けに、受検後の教師用資料として学年視点での概況データ、教科視点での分野別データ等をご提供します。Webサービス(無料)として、先生が生徒の各時点での取り組み状況を確認可能ですので、総合的に事後の指導改善にお役立ていただけます。 <p>【活用例】</p> <p>1年生7月に実施し、高校1年生の1学期段階での「教科学力」の初期把握を行うことで、その結果を2学期以降の学年の指導計画に反映します。1年生11月・1月に継続的に受検することで学年全体・生徒一人ひとりの学力変化を把握し、学年集会や個人面談の際などに生徒の自発的な学習意欲を喚起することが可能です。</p>	<p>【実施期間】</p> <p>1年生7月・11月・1月、2年生7月・11月・1月の計6回 各回とも統一実施日を設け、その後1週間程度を実施可能期間として設定</p> <p>【お申込み時期】</p> <p>各回とも統一実施日の15～20日前に「申込締切日」を設定</p>	PBTのみ	<p>【国語】</p> <p><1年生>7月：60分、11月：80分、1月：80分 <2年生>7月：80分、11月：80分、1月：90分</p> <p>【数学】</p> <p><1年生>7月：80分、11月：100分、1月：100分 <2年生>7月：100分、11月：100分、1月：120分</p> <p>【英語】</p> <p><1年生>リスニング・リーディング・ライティング 7月：60分、11月：80分、1月：80分</p>	<p><高1> 2,820円/回</p> <p><高2> (7月) 2,930円/回 (11・1月) 3,080円/回</p>	答案到着後約4～5週間で返却。
			URL (事業者のHPにおける商品・サービス紹介)			http://www.bhso.ne.jp	※教員専用URL		
株式会社 リクルー トマーケ ティング パート ナーズ	スタディサ プリ 高1 学び の活用力診 断～スタン ダード～ スタディサ プリ 高2 学び の活用力診 断～スタン ダード～	高校1年 生、高校2 年生 基礎学力の 定着を必要 とする生徒 大学等への 進学を考え ている生徒	<p>高校1年生、高校2年生について、生徒の基礎学力をしっかり定着させ、応用できる力をつけさせることを目的とし、問題構成にあっては、知識・技能の問題のみでなく、思考力・判断力・表現力を見る問題も合わせて出題します。また、学びの基礎診断の趣旨に鑑みて、生徒に基礎レベルの徹底的な復習を行わせ、定着させ、また指導者に対して、生徒指導に役立つ結果資料を提供することを目的とします。</p> <p>本ツールではスピーキングは測定せず、問題、採点基準の提供のみとします。</p>	<p>本ツールは「スタディサプリ」との連携を考えて企画しています。測定用問題セット(詳しい解答解説付き)と復習用問題セット(詳しい解答解説付き)からなります。このツールの最大の特長は、問題作成段階から「スタディサプリ」との連携を意識して作成している点です。生徒は測定用問題を受検することにより、基礎項目のどこに定着していない部分があり、またそれら未定着の部分のうち、どこを優先して学習し直せば良いかを把握することができます。また指導者はそれら優先課題について「スタディサプリfor Teachers」を使って、生徒に指示を的確に与えることができ、それらの取り組み状況を把握することができます。</p> <p>また、2年生については志望校判定も行い、大学入試を考えた際の生徒の現状の実力についても判定をします。</p>	<p>高1、高2とも年間3回で、7月、11月、1月にそれぞれ標準実施日を設けています。</p> <p>(2019年6月1日受検申込み開始予定、2019年7月以降実施開始予定。)</p>	PBT	<p>【国語】</p> <p>1年7月…60分 1年11月、1月…80分 2年7月、11月…80分 2年1月…90分</p> <p>【数学】</p> <p>1年7月…80分 1年11月、1月…100分 2年7月、11月…100分 2年1月…120分</p> <p>【英語】</p> <p>1年7月…60分 1年11月、1月…80分 2年7月、11月…80分 2年1月…90分</p>	<p><高1> 3000円/回</p> <p><高2> (7月) 3000円/回 (11・1月) 3300円/回 (高2の11月、1月につきましては理科、地歴公民も含まれます。また、スタディサプリとのセット料金も準備してあります。)</p>	1.5か月
			URL (事業者のHPにおける商品・サービス紹介)			https://teachers.studysapuri.jp/shindan			

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間
【単教科（国語）】									
公益財団法人 日本漢字能力検定協会	文章読解・作成能力検定 3級	高校1年生から2年生	義務教育段階で身につけた語彙力を土台として、文章の読解力や作成力、ひいては論理的思考力やコミュニケーション力を高めることを目的としています。	「基礎力」「読解力」「作成力」に大別し、その能力を5つの大問により測定します。特に一定数の文字量の文章を手書きで記述することを重視しており、3級では170字程度の通信文の推敲、450字程度の意見文の作成を課しています。測定は1回で完結しますが、年間6日程全てで同レベルかつ異なる問題（新しい問題）を出題しているため、複数回受検して学習の伸長度を確認することも可能です。また、大学や企業での活用例も増えてきているため、学習した内容・結果がそのまま入試やレポート作成、就職試験などの将来にも役立ちます。	年間6日程（8月～11月で3日程、1月～2月で3日程）のうち、学校側が都合のよい日程を選択して受検できます。全ての日程で異なる問題を作成しているため、クラスによって異なる日程（時期）を選択することも可能です。	PBT	60分	3,000円/回	約40日後
		URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）		http://www.kanken.or.jp/bunshouken/					
公益財団法人 日本漢字能力検定協会	文章読解・作成能力検定 準2級	高校2年生から3年生	義務教育段階で身につけた語彙力を土台として、文章の読解力や作成力、ひいては論理的思考力やコミュニケーション力を高めることを目的としています。	「基礎力」「読解力」「作成力」に大別し、その能力を5つの大問により測定します。特に一定数の文字量の文章を手書きで記述することを重視しており、準2級では100字程度の通信文、550字程度の論説文の作成を課しています。測定は1回で完結しますが、年間6日程全てで同レベルかつ異なる問題（新しい問題）を出題しているため、複数回受検して学習の伸長度を確認することも可能です。また、大学や企業での活用例も増えてきているため、学習した内容・結果がそのまま入試やレポート作成、就職試験などの将来にも役立ちます。	年間6日程（8月～11月で3日程、1月～2月で3日程）のうち、学校側が都合のよい日程を選択して受検できます。全ての日程で異なる問題を作成しているため、クラスによって異なる日程（時期）を選択することも可能です。	PBT	60分	3,000円/回	約40日後
		URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）		http://www.kanken.or.jp/bunshouken/					
株式会社 ベネッセコーポレーション	『Literas 論理言語力検定』（『語彙・読解力検定』の後継検定。商標登録申請中）2級	実生活で生きて働き、各教科の学習の基本となる語彙力・読解力・聴解力等の言語能力を身につけさせたい、高校1年生～3年生	【目的】 教科の国語をベースとしながら、実生活で生きて働き、各教科の学習の基本となる言語能力を、育成・測定します。 【概要】 以下の3領域で測定（級認定）する検定ですが、国語の学習指導要領に対応した「語彙運用力」「情報理解力（聴解・読解）」の2領域でPDCAを回して国語の授業改善に生かせるようにすることで、「学びの基礎診断」へ申請します（以下、申請書では原則2領域に関する部分について記載し、3領域に関わる部分は注記を入れます）。 なお、受検は3領域で行います。 ・論理的思考の基盤となる「語彙運用力」 ・実社会において様々な情報を理解するための「情報理解力（聴解・読解）」 ・視野を広げ、社会課題を理解するための「社会理解力」 2級では特に、論理的文章の理解・アウトプットにつながる語彙力や、社会課題につながるテーマを的確に聴解・読解して正しく理解する力を育成・測定します。	【特長・活用例】 特に国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する資質・能力の育成とその測定ツールとして活用できます。 【P】 事前に教師は、該当学年の生徒の状態目標設定を行う。生徒は、検定独自のCan Doリストから自らの目指す姿の目標設定を行う。 【D】 国語の授業とあわせて、語彙力・読解力・聴解力に特化した教材で学習する。 【C】 検定を受検し、結果を確認する。 【A】 教師は、団体成績表から、生徒の現状を把握し、授業改善につなげる。生徒は、自己採点をして内容を振り返るとともに、受検結果返却時に自分の学習の成果や課題を認識し、改善につなげる。 【A】 教師は、団体成績表から、生徒の現状を把握し、授業改善につなげる。生徒は、自己採点をして内容を振り返るとともに、受検結果返却時に自分の学習の成果や課題を認識し、改善につなげる。 ※検定として公的な資格となるので、推薦・AO等の大学入試における級の合格結果の活用や多面的総合的評価の一つとして利用することが可能です。	【実施期間】 11月の規定日 【年間実施回数】 年1回 ※級認定を行う検定回は上記のとおりです。検定実施日以降も、級認定を行わない学校内のアセスメントとして、学校の希望する時期に実施可能です。（2019年度の実施月は12月・1月・2月。以降、毎年4・5・6・7・9・10・12・1・2月に予定。）	PBT	50分 (※「社会理解力」を含む、3領域での時間)	【検定】 2級： 2,650円/回 【教材】 450円 ※できるだけ、 【検定】 と 【教材】 をセットで使用することをお勧めします。	実施後約1か月
		URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）		2018年6月末まで：『語彙・読解力検定』公式サイト (http://www.goi-dokkai.jp/) ※2019年度より『語彙・読解力検定』自体の大幅改訂を予定しています。サイトは改訂前のものです。 2018年7月以降：『Literas 論理言語力検定』（商標登録申請中）公式サイト設置予定。 (http://literas.benesse.ne.jp/)					

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間
【単教科（数学）】									
公益財団法人 日本数学検定協会	実用数学技能検定 準2級	数学Ⅰ及び数学Aを学修した者	数学Ⅰ、数学Aの定着度合いを診断することを目的として、義務教育段階（中学校第3学年）の数学を含めて、基礎学力の定着度合いを確認したい高校1年生から3年生までを主な対象とし、知識・技能を活用する力と思考力・判断力・表現力を測定します。	実用数学技能検定（数学検定）準2級は、1次：計算技能検定と2次：数理技能検定で構成されています。2次：数理技能検定ではおおよそ半数の問題が記述式となっています。日常生活や社会の事象と関連した問題、数理的なゲームやパズルを扱った問題も出題されます。年間の実施回数が17回程度設定されているため、実施しやすくなっています。個別成績票と団体成績表が充実しており、高校生の基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの取組を促進し、高等学校の質の確保・向上に資する検定となっています。	年間17回程度実施	PBT	1次：計算技能検定 60分 2次：数理技能検定 90分	3,500円/回	マイページでの合否確認（電子媒体）は、検定日から約3週間後 検定結果（紙媒体）の到着は、検定日から約30日後
			URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）	http://www.su-gaku.net/					
公益財団法人 日本数学検定協会	数検スコア基礎診断 数Ⅰ・数A（項目別診断）	義務教育段階の数学ならびに数学Ⅰ・数学Aの基礎学力の定着をめざす者	数検スコア基礎診断は、「①WEB分析(4か月)+②項目別診断(1回)」の2種類の診断項目で構成しています。「①WEB分析」とは、生徒のモチベーションを引き出し自学自習の力をつけるよう設計された分析です。実施方法は、インターネット環境を利用してパソコンやタブレットから、いつでも、どこでも、何度でも簡単に実施することができるCBT方式を採用しており、生徒は、実施後画面上で、学習項目別の正誤・解説・模範解答などによる学習項目別の到達度合を確認・把握することができます。さらに先生は、生徒それぞれの解答状況、理解度、正答率、所要時間、正誤についてWEB画面（管理権限が付与された先生用のアカウントを利用）により閲覧、確認、把握することができます。「②項目別診断」とは、WEB分析と同様にCBT方式で実施し、「実施日時」と「診断したい範囲」を先生が任意に設定することができますので、授業の進捗や生徒の理解度、クラス単位に合わせて診断範囲を決めて実施することができます。先生は、数検スコア基礎診断の診断結果を利用し、クラス全体の学習項目理解度と到達度合を把握し、授業計画や改善などのPDCAサイクルをまわす指標として活用することができます。さらに、診断結果で得られる、「生徒の得意・不得意な学習項目、予習や復習への取り組み方や姿勢、学習項目理解度、目標値への到達度合、復習すべきポイント」を把握して、生徒単位の「面談指導」を実施することができます。診断結果の見方については、資料の報告に伴い先生に付与される管理画面の機能などを利用して解説、説明をサポートします。また、申し込み時に「個人の情報を持たない」人数分の診断用のIDとパスワードを先生に配付しますので、生徒個人の情報登録が不要となり、情報漏洩の心配は一切ありません。さらに、診断の申し込みから、診断実施、結果の返却、システムトラブルなどについて万全のサポート体制を構築しています。受け付け窓口は、平日の9時から18時までとなり、電話・メールによるサポートをします。※土日祝は緊急連絡先を用意します。	数検スコア基礎診断の特長 1. 診断実施における先生の業務負担を最小限まで抑え、簡単に利用できる診断です。WEB分析と項目別診断はCBT方式で実施しますので、いつでも、どこでも実施でき、試験資材の配布・回収などの手間は一切ありません。 2. 診断結果を利用して、授業の計画や授業改善など、PDCAを回すための指針として活用することができます。先生が事前に設定する診断範囲や目標値、授業重点度における到達度合と理解度、復習すべき項目と復習レベルについてクラス全体が可視化されるため、授業計画や改善のPDCAを回すための資料として活用できます。 3. WEB分析を利用して生徒個人の日々の学習項目別理解度を把握できます。先生は、生徒個人のWEB分析の実施状況(正答率、正誤、実施回数など)をリアルタイムに集計・把握することができますので、診断を利用した個別指導や目標設定など生徒のサポート教材として利用することができます。 4. 授業の進捗状況やスケジュールなどに合わせて、先生が診断する範囲を任意に設定でき、クラスごとに授業の重点度や目標値を設定することができるため、「先生オリジナルの診断」が実施できます。 5. WEB分析と項目別診断の結果により生徒の不得意分野(不得意な学習要素)や日々の理解度と到達度合、先生が設定した目標に対する理解度を把握することができるため、個人面談の資料として利用することができます。 活用例 1. 数検スコア基礎診断で診断する範囲、目標値を任意で設定しオリジナルの診断として実施し、PDCAを回し授業改善の指針として活用する。 2. 数検スコア基礎診断のWEB分析を確認テストや小テストとして利用し、日々の理解度をチェックし、項目別診断を学内の期末テストの補助に利用する。 3. 数検スコア基礎診断のWEB分析を予習・復習用の学習教材・補助教材・練習問題などとして利用し生徒の日々の理解度を把握し授業計画の参考とする 4. WEB分析による日々の理解度と項目別診断による到達度を可視化し生徒個人の日々の努力、授業への取り組み方、学習項目ごとの理解度を分析し面談資料として活用する。	2018年9月から申込・実施を開始予定 通年で実施し、項目別診断は先生が任意で実施日時を決めることができます。	CBT	項目別診断：20分～ ※必須20分+約2分×(選択した学習項目数)	6,156円/回 ※WEB分析を含むシステムの利用期間は4か月、項目別診断は1回	項目別診断実施後、7営業日程度
			URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）	http://suken-score.tank.jp/					

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間
〔【単教科（数学）】〕									
公益財団 法人 日本数学 検定協会	数検スコア 総合診断 数Ⅰ・数A	数学Ⅰ及び 数学Aをす べて学習し 終えた者	<p>数検スコア総合診断は、数学Ⅰと数学Aを中心に義務教育段階の数学を含めて、学習項目ごとの理解度を測定します。測定する資質・能力は、数学Ⅰの「数と式」、「図形と計量」、「二次関数」、「データの分析」と、数学Aの「場合の数と確率」、「整数の性質」、「図形の性質」と義務教育段階の数学の「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」についてです。</p> <p>実施方法は、CBT方式で実施し、インターネット環境を利用してパソコンやタブレットから、いつでも、どこでも、実施することができます。</p> <p>診断実施前に先生から「クラスの目標値」と「学習項目別の授業重点度」をヒアリングし、生徒の診断結果集計に反映させます。反映された診断結果は、先生の授業に直結した結果となるため、授業改善や授業重点度の見直しなど、授業のPDCAサイクルを回す指標として活用できます。さらに、個人の診断結果を利用して先生は生徒単位の「面談指導」の資料としても活用できます。</p> <p>CBT方式の実施において、個人の情報を登録せずに「個人情報を持たない」IDとパスワードを利用することで、情報漏洩などを未然に防ぎます。</p> <p>診断の申し込みから、診断実施、結果の返却、万が一のシステムトラブルについて万全のサポート体制を構築しております。受け付け窓口は、平日9時から18時まで、電話・メールによるサポートをいたします。※土日祝については緊急連絡先をご用意しております。</p>	<p>数検スコア総合診断の特長</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診断実施における先生の業務負担を最小限まで抑え、簡単に利用できる診断です。CBT方式で実施しますので、いつでも、どこでも実施でき、試験資材の配付・回収などの手間は一切ございません。 2. 診断結果を利用して、授業の計画や授業改善など、PDCAを回すための指標として活用することができます。先生が事前に設定する目標値、授業重点度における到達度合と理解度、復習すべき項目と復習レベルについてクラス全体が可視化されるため、授業計画や改善のPDCAを回すための資料として活用できます。 3. 診断結果を個人面談などの面談資料として利用できます。先生が目標値を設定し、授業重点度に対する理解度も可視化されるため、生徒の不得意分野と合わせて、個人面談の資料として利用することができます。 <p>活用例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数検スコア総合診断の目標値、授業重点度を設定して授業改善、見直しのPDCAサイクルの指標として活用する。 2. 数検スコア総合診断を学内で実施していた中間テストや期末テストの補助として活用する。 3. 診断結果を生徒との個人面談の資料の一部として利用する。 	2018年9月から申込・実施を開始予定 通年で実施しており、実施時期は先生が任意で決めることができます。	CBT	60分	3,456円/回	7営業日 程度
			URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）			http://suken-score.tank.jp/			
株式会社 ベネッセ コーポ レーショ ン	ベネッセ数 学理解力検 定（仮称） ※19年度よ り新規提供	主に、四年 制大学・短 期大学等へ の進学をめ ざす高校1年 生	<p>【目的・概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学の授業内容の理解度把握を目的として、学校の履修進度に沿った出題をしています。これにより、各学校の履修内容に合わせた数学の理解度・定着度を、項目応答理論（IRT）によるスコアと4段階（予定）のグレードで確認できます。 ・記述式問題により「知識・技能」から「思考力・判断力・表現力」まで幅広い学力の測定が可能です。 ・生徒一人ひとりが目標設定～自己採点～結果の振り返り・事後学習のプロセスを自発的に取り組める仕組みとなっています。 	<p>【特長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業進度に合った弁別性の高い問題で、数学の学力を的確に把握することができます。 ・付属のアイテムを使って事前の目標設定～受検直後の自己採点～結果返却後の事後学習のプロセスをつなぐことで、生徒の学習改善への自発的な取り組みにつながります。 ・教師用資料として学年視点からの概況データ、教科視点からの分野別データ等をご提供します。加えて、生徒個人の受検結果一覧では、グレード認定の状況を過回に遡って確認することができます。 <p>【活用例】</p> <p>1年生7月に実施し、高1・初期段階の数学の学力を把握することで、その結果を2学期以降の学年の指導計画に反映できます。</p> <p>1年生11月・1月に継続的に受検することで、学年全体・生徒一人ひとりの学力変化を項目応答理論（IRT）によるスコアで把握できるため、学年集会や個人面談の際などに同指標を用いた生徒の自発的な学習意欲を喚起することが可能です。</p>	<p>【実施期間】1年生7月・11月・1月 計3回 検定日（統一実施日）を設け、その日以外の実施は認めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生7月：2019年6月末～7月初旬実施予定 ・1年生11月：2019年10月末～11月初旬実施予定 ・1年生1月：2020年1月下旬実施予定 <p>※いずれも上記範囲内で検定日を調整中。2018年9月に決定予定。</p> <p>【お申込み時期】2019年3月末より申込受付開始予定 各回検定日（統一実施日）の15～20日前に「申込締切日」を設定。</p>	PBTのみ	7月：80分 11月・1月： 100分	2,200円/回	答案到着 後約4～5 週間で返 却。
			URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）			http://www.bhso.ne.jp	※19年度リリースに向けて、左記URLに今後掲載予定		

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間
------	------------------	-------	-------	---------	-----------------	-------------------	-------------	-------------	------------

【単教科（英語）】

ケンブリッジ大学英語検定機構 (英語表記: Cambridge Assessment English)	ケンブリッジ英語検定 A2 Key for Schools (PB/CB)	高校1～2年生。CEFR基礎レベルのA1-A2からB1に届く3つのレベルを正確に測定	学習者が実生活のさまざまな状況でのコミュニケーションのために英語をどのように使うことができるかを評価する。国際通用性が高く、高等教育機関への扉を開き、就業の機会を高め、勉強や仕事の選択肢を広げていく。 A2 Keyは世界の扉を開く自分だけの鍵Keyを作ることをサポートします。	日常的に用いる英語をどれだけ学習したかを測ることが意図された出題です。検定教科書のコミュニケーション英語 I および英語表現 I の目標に合致した内容となっています。 1年間の試験回数はPB/CB合わせて31回（世界共通）※問題セットはすべて異なる	年間実施回数計31回 (PB: 20回/CB: 11回) PB: 3月[2] 4月[2] 5月[6] 6月[4] 8月[1] 10月[2] 11月[1] 12月[2] CB: 2月[1] 3月[1] 4月[1] 5月[1] 6月[2] 7月[1] 9月[1] 10月[1] 11月[1] 12月[1]	PBT/CBT ※A2 Key for SchoolsはCBT/PBT両方の実施方式があるが、いずれもスピーキングはペア面接です。 (受検者2名のやり取り)	R&W:1時間10分 L:約30分 S:約8-10分 計 約1時間50分	公開会場の場合 9,720円/回 ※自校実施の場合、会場提供の協力費として最大20%割引できる可能性があります。ただし、遠隔地の学校の場合、スピーキング試験官および試験監督の派遣費用が別途掛かりますこと、予めご了承ください。	試験日の7～8週間後に、英国にて発行された「結果ステートメント」と、一定の基準に達した方には「認定証」を郵送でお送りします。 ※オンラインサービスにてPBT試験日の6週間後に、またCBT試験日の2～3週間後に確認できます。
		URL (事業者のHPにおける商品・サービス紹介)			http://www.cambridgeenglish.org/jp/exams-and-tests/key/				
ケンブリッジ大学英語検定機構 (英語表記: Cambridge Assessment English)	ケンブリッジ英語検定 4技能CBT (Linguaskill リンガスキル)	高校1年生以上。CEFR基礎レベルのA1から熟達レベルのC1以上まで幅広く測定	ケンブリッジ英語検定の品質と信頼を継承した英語4技能自動採点・評価CBTです。 正しいCEFRベースおよびCambridge Englishスケールスコアの採点結果を迅速に返却することが可能です。 Reading/Listeningはコンピューター適応型テストで、質問は受検者の前問の解答によって難易度が調整されます。WritingとSpeaking*はAI(人工知能)によるパフォーマンス評価です。(*2018年6月現在、Speakingは採点官による採点ですが、徐々にAI採点へと移行する予定)	試験日時は年間365日いつでも設定可。インターネットに接続されたコンピューターと人数分のヘッドセットがあれば、僻地や離島を含む全国各地での試験実施が可能です。 ※トレーニングを受けた試験監督が厳正な試験運営をする場合に限る。	4月1日～3月31日 (365日) 年間実施回数の制限はありません。毎日×複数回/日 ※ケンブリッジのガイドラインに則った厳正な試験運営がされる場合に限る。	CBT	R&L:約60-85分 W:45分 S:15分 計 約2時間～2時間25分	公開会場の場合 予価 9,000円/回 ※自校実施の場合、会場およびPC、ヘッドセットなど提供の協力費として割引できる可能性があります。ただし、遠隔地の学校の場合、試験監督の派遣費用が別途掛かることがあります。	Reading/Listeningは瞬時。 4技能総合のテスト結果レポートは48時間以内*に電子的に提供。 *2018年現在、採点官が行っているため48時間以内の返却ですが、AI採点に移行後は即時判定となる予定です。 ※受検者には学校がプリントアウトして返却となります。
		URL (事業者のHPにおける商品・サービス紹介)			http://www.cambridgeenglish.org/jp/exams-and-tests/linguaskill/				

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間
〔【単教科（英語）】〕									
株式会社 Z会ソ リュー ションズ	英語CAN- DOテスト レベル3	大学入試を見据えた高校レベルの英語力を測りたい、高校レベル程度の英語学習者（CEFR A2～B1レベル）	『英語CAN-DOテスト』は「使える英語力」を測るためのテストです。CEFRとその枠組みを日本の英語教育に適合させたCEFR-Jを成績評価に用いているだけでなく、その理念の一つである「英語で具体的にどんなことができるのか」を表した「CAN-DOリスト」に基づいて各技能の出題をすることで、実際の言語使用の場面に根ざした実用的な英語の力を評価することができます。	1. 「使える英語力」をコミュニケーションに測る英語4技能テスト 受検者が実際に遭遇しうる言語使用場面にに基づいた問題に取り組みながら、「知識としての英語力」ではなく、「使える英語力」がどのレベルにあるのかを測ります。 2. 投野由紀夫先生（東京外国語大学教授）監修。CEFR-Jで伸長を可視化 CEFRを日本の英語教育に導入するための枠組みとして開発されたCEFR-Jを用いることで、日々の英語力の伸びを可視化します。 3. 授業に組み込みやすい仕様の英語4技能試験 入学・進級時、授業や留学前後の効果測定などに適した試験時間・価格となっています。また、時間・場所を選ばず受検可能です。	【実施回数】年間2回 【実施期間】第1回：4～9月／第2回：10～3月 ※期間内にいつでも受検いただけます。	「CBT（全技能）」または「PBT（スピーキング以外）+ CBT（スピーキング）」の選択可 ※CBT（スピーキング）のみのご受検も可能です。	90分 (S：12分、L：24分、その他：54分)	【CBT（全技能）】 (団体) 4,212円/回 (一般) 5,054円/回 【PBT（S以外）+ CBT（S）】 (団体) 4,644円/回 ※一般受検はナシ	【CBT（全技能）】個人成績表：受検終了から2週間後／団体用成績データ：受検終了から1カ月後 【PBT（S以外）+ CBT（S）】個人成績表：受検終了から1カ月後／団体用成績データ：受検終了から1カ月半後
		URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）			https://www.zkai.co.jp/assess/				
ブリ ティッ シュ・カ ウンシル	Aptis for Teens (ア プティス フォー ティーンズ /中高生向 けAptis)	10代英語学習者（中等教育課程）で、CEFRでA1からB2のレベルの生徒を対象とします。	AptisはSocio-cognitive（社会認知）モデルの言語テストとしてデザインされました。 英語を一般的に使用する様々な場面を想定し、英語4技能での、コミュニケーション力を測定する事を目的としています。また10代向けのAptisでは中高生が学校生活で使用する単語を出題に入れています。Aptisは団体向けに設計された評価ツールで、個人向けの資格試験ではありません。教育機関等で、学生の英語力を技能別に評価し、授業計画の立案、指導、クラス分け、または授業の質評価の際に利用されています。	実施日時を自由に選べる融通の高さと、CEFRによる成績提供で世界的な基準で英語のコミュニケーション力を評価する点が特徴といえます。技能ごとにCEFRで評価ができませんので、強化が必要な技能を認識してPDCAサイクルを計画することが可能となります。4技能型のテストですが、採点結果も5日以内で提供できますので、授業計画の見直しの際にスケジュールが立てやすいという利点もあります。実際のコミュニケーションを想定した設問となっているので、Aptisを受けることによる良いウォッシュバックも期待されます。 マレーシア教育省の教員の英語力測定や、日本・京都大学での新規導入プログラムの効果測定に利用されました。現在中国の中等教育・高等教育機関でも広く利用されています。	試験日時は学校側で決定することが可能。 実施回数にも制限はありません。	CBT	172分 (文法と語彙 (コアパート)：25分 リーディング：30分 リスニング：55分 ライティング：50分 スピーキング：12分)	8,640円/回	試験終了から5日（最短で3日ですが、受験者数によって5営業日必要な場合がございます）
		URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）			https://www.britishcouncil.jp/exam/aptis				

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間
<p>（【単教科（英語）】）</p>									
<p>株式会社 ベネッセ コーポ レーショ ン</p>	<p>GTEC Advanced タイプ・ Basicタイ プ</p>	<p>中学1年生～ 高校3年生</p>	<p>実際の言語使用場面を前提とし、英語コミュニケーション能力を測定することを目的としたスコア型4技能検定です。授業で学んだ英語を「実際に使う」手ごたえを感じられる日本の中高生に適した出題です。自分が登場人物になったつもりで取り組める問題も出題されており、受検そのものが英語を使った生活体験に感じられるように工夫しています。</p>	<p>◆特長1：技能別の英語力をスコア型の絶対評価で測定 技能別の英語運用力を絶対評価で示しますので、英語力の伸びを実感できます。継続的に受検することで、「過去の自分からどれだけ成長したか」を数値で把握できます。スコアは4技能のCEFRレベル別結果を確認することができます。</p> <p>◆特長2：日本の中高生の英語力を測るのに適した問題 授業で学んだ英語を「実際に使う」という手ごたえを感じられる出題です。また、背景知識に左右されないため、より正確に生徒の現在の英語力とその伸長がスコアに現れます。</p> <p>◆特長3（及び、活用例）：振り返りに役立つ充実した フィードバック 詳細な教師用帳票とスコアレポート（個人別成績票）により、次のご指導・学習のポイントが明確になります。また、生徒一人ひとりに音声付きの付属学習教材「STEP UPノート」を提供します。 ※活用例）長期休暇前にテストを受検し、テスト結果に応じて、休暇中に、「STEP UPノート」で自身の英語力を高めることが可能です。</p>	<p>2019年度より、大学入試成績提供システムに成績を提出することが可能な「検定版」と、日頃の学習の成果を確認したり、自分の英語力の現状を確認したりするための「アセスメント版」の2種類のGTECを提供する予定です。「学びの基礎診断」としては、日頃の学習の成果の確認が可能で、フィードバックや事後学習機能が充実している「アセスメント版（難易度の高い順に、Advancedタイプ・Basicタイプ・Coreタイプ）」をご利用いただくことが可能です。 ※「アセスメント版」の2019年度の「申込開始日」及び「実施開始日」については、確定次第ホームページ等で告知をいたします。 ※どの問題タイプにおいても、問題内容は4月と10月に切り替え予定で、同じ問題タイプでも年に2回ご受検いただけます。</p>	<p>リーディング・リスニング・ライティングはPBT スピーキングはタブレット端末を使用したCBT</p>	<p>◆ Advanced/Basic ：合計120分 聞くこと：約25分 読むこと：約45分 話すこと：約25分 書くこと：約25分</p>	<p>4技能 5,040円/回 ※2018年6月現在の受検料</p>	<p>答案弊社 到着後、 約1.5～ 2ヶ月</p>
<p>URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）</p>				<p>https://www.benesse-gtec.com/fs/</p>					

○基本タイプ【義務教育段階の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ】

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間
【3教科（国語・数学・英語）】									
株式会社 学研アソ シエ	学習到達度 診断 基礎力コー ス	中学校の学 習内容を含 めて基礎学 力の定着度 合いを確認 したい高校1 ～3年生	基礎学力の定着度合いを診断することを目的として、中学校の学習内容 を含めて基礎学力の定着度合いを確認したい高校1～3年生を主な対象と する	テスト(測定) →学力分析 →フォローノート →弱点 補強	1年生:第1回 平成 31年2月実施開始予 定、平成30年12月 から受検申込み開 始予定 2年生:第1(3)回 同上 3年生:第1(5)回 同上 1・2年生年間2回、 3年生年間1回	PBT *CBTに 関しては 研究中。	各教科50分	フォローノート セット 2,000円/回 診断のみ 1,600円/回	答案到着 から2～3 週間
株式会社 学研アソ シエ	基礎力測定 診断 ベーシック コース	中学校の学 習内容を含 めて基礎学 力の定着度 合いを確認 したい高校1 ～3年生	基礎学力の定着度合いを診断することを目的として、中学校の学習内容 を含めて基礎学力の定着度合いを確認したい高校1～3年生を主な対象と する	事前学習【ワークブック】→テスト(測定)→学力分析 →フォロー【フォローアップテスト】	1年生:第1回 平成 31年4月実施開始予 定、平成31年1月か ら受検申込み開始 予定 2年生:第1(4)回 平 成32年4月実施開始 予定、平成32年1月 から受検申込み開 始予定 3年生:第1(7)回 平 成33年4月実施開始 予定、平成33年1月 から受検申込み開 始予定 1・2年生年間3回、 3年生年間2回	PBT *CBTに 関しては 研究中。	各教科50分	1,700円/回	答案到着 から2～3 週間

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間
(【3教科(国語・数学・英語)】)									
株式会社 ベネッセ コーポ レーショ ン	進路マップ 基礎力診断 テスト	就職から専 門学校を含 む各種の学 校・短期大 学・四年制 大学への進 学まで幅広 い進路をめ ざす高校1年 生～高校3年 生	<p>【目的】 義務教育範囲から高校履修範囲までの基礎学力の定着度・学習習慣の状況定期的に測定することで、学校としての指導改善、生徒の学習改善・学習意欲向上・基礎学力向上に役立ててもらうことを目的とする。</p> <p>【概要】 ・「マーク式」(選択肢)問題と「記述式」問題から構成され、「マーク式」問題では主に基礎学力の「知識・技能」を、「記述式」問題では主に「思考力・判断力・表現力」を測定します。 ・義務教育範囲から高校履修範囲までの基礎学力の定着度をそれぞれの学校の進度にあわせて(回ごとの進度対応)測定することができます。回ごとに事前学習教材の内容とテスト問題の内容が連携しています。 ・生徒向けに、基礎学力の到達状況とその状況に基づいた個別の学習課題を結果として提供するとともに、学習アドバイスを提供することで、受検結果を次の学習改善につなげます。 ・学校へは学年集団の特性がわかる概況データ及びクラス担任・教科担任先生用に学習状況を踏まえた情報を提供することで、指導改善や生徒への声かけの材料として活用いただけます。 ・1年生から3年生まで全9回構成となっており、選択問題も含まれますので学校の進度により合った実施・測定が可能です。国語・数学・英語についての「マーク式」問題50分間×3教科+「記述式」問題15分間×3教科に加えて、英語スピーキングテスト問題25分間または学校採点の英語スピーキング問題5分間、アンケート30分間の構成です。 ・タイプは2種類あり、Cタイプは「教科診断+アンケート」、AタイプはCタイプに「進路適性検査」が加わったものです。</p>	<p>【特長】 ・事前学習教材と教科テストの内容は6割～7割準拠しています。診断結果は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」別の観点、「義務教育範囲」「高校範囲」別の観点等で集計し測定しています。 ・教科テストとあわせて学習力(教科学習面・生活面・進路面)に関するアンケートがあり、学習習慣作りを含めた生徒向けアドバイスを提供します。 ・事後学習用に、結果に応じた個別問題(生徒用個人帳票に掲載)と動画が提供されます。一人ひとりのつまづきにあわせた学習の仕組みを提供することで学習改善につなげます。 ・学力については、学力測定指標「学習到達ゾーン(GTZ)」により進路可能性と関係づけることで学力結果を生徒の進路選択につなげています。</p> <p>【活用例】 1年生4月入学直後に実施し、入学段階での「基礎学力」と「学習力」の初期把握を行い、その結果を学年の指導計画に反映します。また、個人結果をもとにしたクラス担任先生の個別面談により生徒一人ひとりの状況把握ができます。1年生9月に2回めを受けることで、4月からの学力の推移と学習力の変容を把握し、4月からの指導成果を検証することで、学年後半の指導改善につなげます。 ・問題は全回各教科とも前年度と同一問題です。</p>	<p>【実施期間】 原則、実施時期×学年回の選択は、学校による自由設定 問題としては、1年生4回、2年生3回、3年生2回、計9回</p> <p>【お申込み時期】 実施日の15日前を締切とする</p>	PBTのみ	<p>【国語】 各学年回 「マーク式」問題：50分 「記述式」問題：15分 【数学】 各学年回 「マーク式」問題：50分 「記述式」問題：15分 【英語】 各学年回 「マーク式」問題：50分(リーディング・リスニング) 「記述式」問題：15分(ライティング) スピーキングテスト問題：25分 または 学校採点のスピーキング問題：5分</p>	<p>Cタイプ： 学校採点の英語スピーキング問題の場合：2,260円/回 英語スピーキングテスト問題の場合：3,060円/回</p> <p>Aタイプ： 学校採点の英語スピーキング問題の場合：2,980円/回 英語スピーキングテスト問題の場合：3,780円/回</p>	<p>1回め： 「マーク式」結果 = 答案到着後約1～2週間で返却(紙)</p> <p>2回め： 「記述式」 = 答案到着後約3～4週間で返却(データ)</p>
			URL (事業者のHPにおける商品・サービス紹介)			http://www.bhso.ne.jp/	※教員専用URL		
株式会社 リクルー トマーケ ティング パート ナーズ	スタディサ プリ 学びの活用 力診断～ ベーシック ～	高校1年 生、高校2 年生 共通必修 科目の定着 を必要とす る生徒	<p>高校1年生、高校2年生について、生徒の基礎学力をしっかり定着させ、応用できる力をつけさせることを目的とし、問題構成にあっては、知識・技能の問題のみでなく、思考力・判断力・表現力を見る問題も合わせて出題します。また、学びの基礎診断の趣旨に鑑みて、生徒に基礎レベルの徹底的な復習を行わせ、定着させ、また指導者に対して、生徒指導に役立つ結果資料を提供することを目的とします。 本ツールではスピーキングは測定せず、問題、採点基準の提供のみとします。</p>	<p>本ツールは「スタディサプリ」との連携を考えて企画しています。測定用問題セット(詳しい解答解説付き)と復習用問題セット(詳しい解答解説付き)からなります。このツールの最大の特長は、問題作成段階から「スタディサプリ」との連携を意識して作成している点です。生徒は測定用問題を受検することにより、基礎項目のどこに定着していない部分があり、またそれら未定着の部分のうち、どこを優先して学習し直せば良いかを把握することができ、また指導者はそれら優先課題について「スタディサプリfor Teachers」を使って、生徒に指示を的確に与えることができ、それらの取り組み状況を把握することができます。</p>	<p>年1回、1月実施です。(2019年12月1日受検申込み開始予定、2020年1月実施開始予定。)</p>	PBT	各教科50分	3000円/回	1.5か月
			URL (事業者のHPにおける商品・サービス紹介)			https://teachers.studysapuri.jp/shindan			

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準 返却期間
------	------------------	-------	-------	---------	-----------------	-------------------	-------------	-------------	------------

【単教科（国語）】

公益財団法人 日本漢字 能力検定 協会	文章読解・ 作成能力検 定 4級	中学校「国 語」の学習 内容を含め て基礎学力 の定着度合 を確認した い高校1年 生	義務教育段階で身につけた語彙力を土台として、文章の読解力や作成力、ひいては論理的思考力やコミュニケーション力を高めることを目的としています。	「基礎力」「読解力」「作成力」に大別し、その能力を5つの大問により測定します。特に一定数の文字量の文章を手書きで記述することを重視しており、4級では100字程度の通信文、320字程度の意見文の作成を課しています。測定は1回で完結しますが、年間6日程全てで同レベルかつ異なる問題（新しい問題）を出題しているため、複数回受検して学習の伸長度を確認することも可能です。また、大学や企業での活用例も増えてきているため、学習した内容・結果がそのまま入試やレポート作成、就職試験などの将来にも役立ちます。	年間6日程（8月～11月で3日程、1月～2月で3日程）のうち、学校側が都合のよい日程を選択して受検できます。全ての日程で異なる問題を作成しているため、クラスによって異なる日程（時期）を選択することも可能です。	PBT	60分	2,000円/回	約40日後
		URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）		http://www.kanken.or.jp/bunshouken/					
株式会社 ベネッセ コーポ レーショ ン	『Literas 論理言語力 検定』 （『語彙・ 読解力検 定』の後継 検定。商標 登録申請 中） 3級	実生活で生 きて働き、 各教科の学 習の基本と なる語彙 力・読解 力・聴解力 などの言語 能力を身に つけさせたい、高校1年 生～3年生	<p>【目的】 教科の国語をベースとしながら、実生活で生きて働き、各教科の学習の基本となる言語能力を、育成・測定します。</p> <p>【概要】 以下の3領域で測定（級認定）する検定ですが、国語の学習指導要領に対応した「語彙運用力」「情報理解力（聴解・読解）」の2領域でPDCAを回して国語の授業改善に生かせるようにすることで、「学びの基礎診断」へ申請します。なお、受検は3領域で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考の基盤となる「語彙運用力」 ・実社会においてさまざまな情報を理解するための「情報理解力（聴解・読解）」 ・視野を広げ、社会課題を理解するための「社会理解力」 <p>3級では特に、実生活で的確に伝え合うための語彙力や、日常生活に関連した身近な話題を的確に聴解・読解して正しく理解する力を育成・測定します。</p>	<p>【特長・活用例】 特に国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する資質・能力の育成とその測定ツールとして活用できます。</p> <p>【P】事前に教師は、該当学年の生徒の状態目標設定を行います。 生徒は、検定独自のCAN-DOリストから自らの目指す姿の目標設定を行います。</p> <p>【D】国語の授業と併せて、語彙力・読解力・聴解力に特化した教材で学習します。</p> <p>【C】検定を受検し、結果を確認します。</p> <p>【A】教師は、団体成績表から、生徒の現状を把握し、授業改善につなげます。 生徒は、自己採点をして内容を振り返るとともに、受検結果返却時に自分の学習の成果や課題を認識し、改善につなげます。</p>	<p>【実施期間】11月の規定日</p> <p>【年間実施回数】 年1回 ※級認定を行う検定回は上記のとおりです。検定実施日以降も、級認定を行わない学校内のアセスメントとして、学校の希望する時期に実施可能です。（2019年度の実施月は12月・1月・2月。以降、毎年4・5・6・7・9・10・12・1・2月に予定です。）</p>	PBT	50分	<p>【検定】 3級： 2,250円/回</p> <p>【教材】 450円</p> <p>※できるだけ、【検定】と【教材】をセットで使用することをお勧めします。</p>	実施後約 1か月
		URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）		<p>2018年6月末まで：『語彙・読解力検定』公式サイト (http://www.goi-dokkai.jp/)</p> <p>※2019年度より『語彙・読解力検定』自体の大幅改訂を予定しています。サイトは改訂前のものです。</p> <p>2018年7月以降：『Literas 論理言語力検定』（商標登録申請中）公式サイト設置予定です。 http://literas.benesse.ne.jp</p>					

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準返却期 間
------	------------------	-------	-------	---------	-----------------	-------------------	-------------	-------------	------------

【単教科（数学）】

公益財団法人 日本数学 検定協会	実用数学技 能検定 3級	数学Ⅰを確 実に習得す るために、 義務教育段 階の数学の 定着度を確 認したい者	義務教育段階の数学の定着度合いを診断することを目的としています。 高校生のなかで、高等学校の共通必修科目である数学Ⅰを確実に習得 するために、義務教育段階の数学の学力の定着度合いを確認したい者を 主な対象とし、知識・技能を活用する力と思考力・判断力・表現力を測 定します。	実用数学技能検定（数学検定）3級は、1次：計算技能検 定と2次：数理技能検定で構成されています。2次：数理 技能検定では記述式の問題が出題されます。日常生活や社 会の事象と関連した問題、数理的なゲームやパズルを扱っ た問題も出題されます。年間の実施回数が17回程度設定さ れているため、実施しやすくなっています。個別成績票と 団体成績表が充実しており、高校生の義務教育段階の数学 の学力定着に向けたPDCAサイクルの取組を促進し、高等 学校の質の確保・向上に資する検定となっています。	年間17回程度実施	PBT	1次：計算技能 検定 60分 2次：数理技能 検定 60分	3,000円/回	○マイページ での合否確 認(電子媒 体)： 検定日から 約3週間 ○検定結果 (紙媒体)の 到着： 検定日から 約30日後
			URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）	http://www.su-gaku.net/					

【単教科（英語）】

株式会社 教育測定 研究所	英検IBA TEST C 4 技能版 (2019年4月 申込受付開 始予定)	英語の基礎 学力の定着 度合いを診 断すること を目的とし た測定ツ ールで、特 に義務教育 段階の学力 の定着度評 価を確認し たい学習者 を対象とし ています。	<ul style="list-style-type: none"> 今回の申請にあたり、教育測定研究所は公益財団法人 日本英語検定協会（以下、英検協会）と英語テストのみならず、管理システム、学習ツールをパッケージ化し、「英語4技能コンソーシアム」を組織します。このコンソーシアムの枠組みを通じて、「英検IBA TEST C 4技能版」を提供いたします。 「英検IBA TEST C 4技能版」とは、英検協会により開発された、4技能の力を安価に測定できるアセスメントツールです。実用英語技能検定（英検）で出題された問題から、良質な問題を再活用して開発されています。 TEST Cの出題レベルは準2級～4級レベルで、義務教育段階から高等学校の通履修科目(コミュニケーション英語I)を網羅する出題内容となっています。特に義務教育段階の学力の定着度評価を確認したい学習者を対象とします。 更に、測定ツールの提供のみならず、eラーニング教材及び生徒の受検履歴や成績、教材の学習状況をトラッキングできるシステムも併せて提供し、基礎学力および英検級取得率の向上に向けたPDCAサイクル構築のサポートをいたします。 	<ul style="list-style-type: none"> 英検で出題された問題から良質な問題を再利用した4技能の測定ツールです。 4技能総合および技能別に、英検級レベル判定、および英検CSEスコアによるフィードバックもあり、能力の伸長度を細かく測定できます。また、テスト結果に応じ、今の英語力でできること（Can-Do）が具体的に説明されます。 学校単位のみならず、自治体内の学校別の英語力の現状・伸長度を把握し、英語力向上に向けたPDCAサイクルの構築するために活用できます。 学校内でも年度当初のクラス分けや、年度途中の能力伸長度の把握にも活用でき、生徒たちのレベルにあった指導を可能にします。さらに、英検公式e-ラーニングであるスタディギア for EIKENのベーシック版や既存で活用されている英検対策教材を活用することで、受検結果に基づく得意/不得意技能の強化を図ることができます。 団体申込システムである「団体サポートシステム」もご利用いただけます。英検及び英検IBAの受検履歴の確認、スタディギア for EIKENの学習状況を閲覧することができ、先生方の学習指導をサポートしていきます。英検本検定の申込も可能であり、IBAのCSEスコアから最適な英検級を特定し、受験いただくことで英検級合格率の向上や英語学習に対するモチベーションの向上、ひいては、基礎学力の向上に寄与いたします。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題セットは2セット以上ご用意していますので、年度内に学力伸長度を測定したいというニーズにもお応えできます。 学校ごとに受験日の設定が可能です。年間実施回数も学校側の希望に可能な限り近づける形で受け付けます。 2019年4月申込受付開始、6月より実施可能(予定)です。 	3技能 (RLW): PBT 1技能(S): CBT	(RL計)45分 (W)15分 (S)約8分	3,000円/回	協会へ答 案着荷 後、30日 ～60日 (予定) *受験時 期の集中 度合いに 応じて若 干の幅が 生じます。
			URL（事業者のHPにおける商品・サービス紹介）	<ul style="list-style-type: none"> 英検IBA http://www.eiken.or.jp/eiken-iba/ スタディギア for EIKEN https://www.ei-navi.jp/service/studygear.html ※2018年8月フルリニューアル予定	<ul style="list-style-type: none"> 団体サポートシステム https://www.youtube.com/watch?v=ULxx6t3QUEM https://www.eiken.or.jp/eiken/info/2016/pdf/20160531_pressrelease_dansupport.pdf 				

事業者名	測定ツール名 (難易度等)	主な対象者	目的・概要	特長・活用例等	実施期間、 年間実施回数	実施方式 (CBT/PBT)	試験時間 (分)	受検料 (税込)	標準返却期 間
(【単教科(英語)】)									
株式会社 Z会ソ リュー ションズ	英語CAN- DOテスト レベル2	中学から高 校への橋渡 しとなる英 語力を測り たい、中学 レベル～高 校初級程度 の英語学習 者(CEFR A1～A2レ ベル)	『英語CAN-DOテスト』は「使える英語力」を測るためのテストです。CEFRとその枠組みを日本の英語教育に適合させたCEFR-Jを成績評価に用いているだけでなく、その理念の一つである「英語で具体的にどんなことができるのか」を表した「CAN-DOリスト」に基づいて各技能の出題をすることで、実際の言語使用の場面に根ざした実用的な英語の力を評価することができます。	1. 「使える英語力」をコミュニカティブに測る英語4技能テスト 受検者が実際に遭遇しうる言語使用場面に基づいた問題に取り組みながら、「知識としての英語力」ではなく、「使える英語力」がどのレベルにあるのかを測ります。 2. 投野由紀夫先生(東京外国語大学教授)監修。CEFR-Jで伸長を可視化 CEFRを日本の英語教育に導入するための枠組みとして開発されたCEFR-Jを用いることで、日々の英語力の伸びを可視化します。 3. 授業に組み込みやすい仕様の英語4技能試験 入学・進級時、授業や留学前後の効果測定などに適した試験時間・価格となっています。また、時間・場所を選ばず受検可能です。	【実施回数】年間 2回 【実施期間】第1 回:4~9月/第 2回:10~3月 ※期間内にいつ でもご受検いただけ ます。	「CBT(全 技能)」ま たは「PBT (スピーキ ング以外) +CBT(ス ピーキン グ)」の選 択可 ※CBT(ス ピーキン グ)のみ のご受検も可 能です。	50分 (S:11分、L: 13分、その他: 26分)	【CBT(全技 能)】 (団体) 4,212円/回 (一般) 5,054円/回 【PBT(S以 外)+CBT (S)】 (団体) 4,644円/回 ※一般受検はナ シ	【CBT(全 技能)】個人 成績表: 受検終了から 2週間後 /団体用成 績データ: 受検終了から 1カ月後 【PBT(S以 外)+CBT (S)】個人 成績表: 受検終了から 1カ月後/ 団体用成 績データ: 受検終了から 1カ月半後
		URL(事業者のHPにおける商品・サービス紹介)			https://www.zkai.co.jp/assess/				
株式会社 ベネッセ コーポ レーショ ン	GTEC Coreタイプ	中学1年生～ 高校3年生	実際の言語使用場面を前提とし、英語コミュニケーション能力を測定することを目的としたスコア型4技能検定です。授業で学んだ英語を「実際に使う」手ごたえを感じられる日本の中高生に適した出題です。自分が登場人物になったつもりで取り組める問題も出題されており、受検そのものが英語を使った生活体験に感じられるように工夫しています。	◆特長1:技能別の英語力をスコア型の絶対評価で測定 技能別の英語運用力を絶対評価で示しますので、英語力の伸びを実感できます。継続的に受検することで、「過去の自分からどれだけ成長したか」を数値で把握できます。スコアは4技能のCEFRレベル別結果を確認することができます。 ◆特長2:日本の中高生の英語力を測るのに適した問題 授業で学んだ英語を「実際に使う」という手ごたえを感じられる出題です。また、背景知識に左右されないため、より正確に生徒の現在の英語力とその伸長がスコアに現れます。 ◆特長3(及び、活用例):振り返りに役立つ充実したフィードバック 詳細な教師用帳票とスコアレポート(個人別成績票)により、次のご指導・学習のポイントが明確になります。また、生徒一人ひとりに音声付きの付属学習教材「STEP UPノート」を提供します。 ※活用例)長期休暇前にテストを受検し、テスト結果に応じて、休暇中に、「STEP UPノート」で自身の英語力を高めることが可能です。	2019年度より、大学入試成績提供システムに成績を提出することが可能な「検定版」と、日頃の学習の成果を確認したり、自分の英語力の現状を確認したりするための「アセスメント版」の2種類のGTECを提供する予定です。「学びの基礎診断」としては、日頃の学習の成果の確認が可能で、フィードバックや事後学習機能が充実している「アセスメント版(難易度の高い順に、Advancedタイプ・Basicタイプ・Coreタイプ)」をご利用いただくことが可能です。 ※「アセスメント版」の2019年度の「申込開始日」及び「実施開始日」については、確定次第ホームページ等で告知をいたします。 ※どの問題タイプにおいても、問題内容は4月と10月に切り替え予定で、同じ問題タイプでも年に2回ご受検いただけます。	リーディ ング・リ スニン グ・ライ ティング はPBT スピーキ ングはタ ブレット 端末を使 用した CBT	◆Core:合計 102分 聞くこと:約20 分 読むこと:約32 分 話すこと:約25 分 書くこと:約25 分	4技能: 5,040円/回 ※2018年6月現 在の受検料	答案弊社 到着後、 約1.5~ 2ヶ月
		URL(事業者のHPにおける商品・サービス紹介)			https://www.benesse-gtec.com/fs/				